シースタイル「ご近所さん実態」調査

半数超が良好な関係保つ

「生活音」や「敷地境界線」に不快

近所との付き合いについて半数超が良好な関係を保っていることがわかった。不動産関連の比較サイトを運営するシースタイル（東京都中央区、川合大無社長）が住生活月間に合わせて「ご近所さんについて実態調査」を実施した。

■　□　■

近所との関係について聞いたところ、「とても良い」（33・3％）と「やや良い」（20・6％）を合わせると53・9％が良好という結果だった。単独項目で見ると「普通」（45・1％）が最も多く、「やや悪い」（0％）と「とても悪い」（1・0％）はほぼなかった。

「近所づきあいをしている」との回答が63・0％となり、37％が「近所づきあいをしてない」となった。

近所づきあいの範囲について、戸建ての居住者と集合住宅（官舎・社宅・寮含む）居住者に尋ねたところ、戸建ては「向こう2～3軒両隣」（42・2％）が最も多く、集合住宅では「同じ建物」（42・2％）が最多だった。戸建ては自宅から近い範囲を近所だと認識し、集合住宅でのご近所は戸建てよりも広いという認識の違いがわかった。

近所づきあいで不快なことがあるとの回答は29・4％となった。戸建てと集合住宅別に見ると、戸建てが30・5％、集合住宅で27・1％となった。

不快に感じることは「生活音がうるさい」（27・9％）が1位。戸建てで30・5％、集合住宅で27・1％となっており、戸建ては「なにかと難癖をつけてくる」と「違法駐車する」が続き、集合住宅は「プライベートなことに入ってくる」と「子どもがうるさい」、「ベランダなどの共有部分でタバコを吸う」が続いた。

「敷地の境界線にうるさい」や「木の枝が敷地内を出ている」「落ち葉が落ちている」といった敷地に不快を感じる人は集合住宅で4・1％だが、戸建ては38・8％と多く見られた。

近所づきあいで良いことが「ある」は70・4％、「ない」が29・6％だった。近所づきあいのメリットとして、「トラブルが起きにくくなる」、「防犯」、「困ったときに助けてくれる」のそれぞれで4割を超えた。

集合住宅の居住者は近所づきあいにメリットを感じている人が少ないこともわかった。

結婚経験者に比べて未婚者に近所づきあいをしたくない人が多い結果も出た。